

「宇都宮市自治基本条例シンポジウム」のアンケートで 出された意見

※ 自治基本条例にあまり関係のない意見・要望等は省いた。

1 自治基本条例に盛り込むべき事項として、提言書素案に記載するかどうか検討すべき意見

- どれだけ改革的な要素を盛り込むことができるのかが、外部から見た宇都宮市の評価につながると思う。

例えば、首長の多選禁止。自治体の予算、人事、公共工事の発注等、強力な権限の保有者が、多選されることをどのように考えるか。

2 既に提言書素案に記載されていると考えられる意見

- 市内に働きに来る人々も市との関わりがあるのでは。
(⇒「定義（市民）」)
- 各主体の情報公開の徹底を明記すべき。
(⇒基本原則「情報の共有」)
- 各主体の責務を明確に規定することが重要だと考えます。
(⇒「市民等の権利と責務」、「議会の役割と責務」、「執行機関の役割と責務」)
- ・ 小学校区の地域割りをきっちりし、自由区をなくしてほしい。自治会と連動させ、不自然にならないようにする。
・ 自治会の区割りを再編成する。
(⇒「地域主体のまちづくり」)
- 住民投票の規定
住民が政策決定に直接参加することを議会は嫌う傾向にある。しかし、今のようない時代に地方議会は万能と言えるのか。重要な事案（例えば市町合併、起債、大型プロジェクト等）によっては、住民の参加意識の高揚のため、住民投票の根拠を自治基本条例（自治体憲法）に置くことも必要だと思う。ただし、あくまでも住民投票は議会の補完機能であると考えます。
(⇒「住民投票」)
- ・ 財政状況のわかりやすい公表 (⇒「財政運営」)
・ 法令の遵守の徹底 (⇒「法令の遵守」)

3 今後の検討のあり方に関する意見

- 自治基本条例を作ることが目的ではなく、作るプロセスを通じて何が地域社会（宇都宮市）に貢献できるかが重要
- この様な自治基本条例の理解を深める機会を多く設けてほしい。パネルディスカッションだけで理解させるのではなく、いろいろな機会やメディア等を活用してPRされたい。
- 現場・現物主義で机上の作業だけでなく市内を歩いてほしい。
- 市民全員が、と言っているわりには、周知不足なのではないか。学校等でも、もっとこういったものを周知していくべきでは。
- 参加できなかった人（しなかった人、無関心の人）へのPRが重要だと思います。
- ・ 検討はオープンにしてほしい
 - ・ パブリックコメントはホームページに載せるだけでなく、PRに重点を置いてほしい。
- ・ 自治基本条例を制定後、情報公開、行政手続、また議会関係の条例見直しにも光を当てなければ、絵に描いた餅になりかねないと思います。つまり、条例制定が新たなスタートということではないでしょうか。

4 シンポジウムの内容や、自治基本条例に対する感想・意見等

(シンポジウムの感想等)

- 自治基本条例の必要性が良くわかった。牛山教授の話は大変参考になった。パネリストの人達の勉強ぶりを垣間見せてもらい感動した。
- 安全・安心なまちづくり，地域における子育て等，改めて，自治基本条例の大切さを知りました。
市民，行政，企業がよく話し合い，より良いまちづくりをしていくためのルールをつくることだと理解できました。
素晴らしい条例が出来ることを期待しております。
ありがとうございました。
- ・ 36名の委員，しかも24名は公募というのは素晴らしいと思いました。
・ 宇都宮市のような大きな自治体で住民投票について定めるのは，画期的であると思います。
- 小針氏の意見に大変共感できました。今後も，一般市民の意見を代弁していただきたい。
- 他市から参加させていただきました。
自治基本条例がなくても市民との協働はできる，と思っている行政に対し，どうしても必要と説得し，納得してもらうのは大変なことです。
宇都宮市が，精力的に取り組んでいる様子がよく理解でき，羨ましい限りです。
やはり首長の姿勢も重要だと思いました。
- 今日の話は，かなり良く分かりました。(ギャップの問題がありましたが…。)
例えば，政治に関心はあるが他に仕事があって，政治家になって政治に関わる余裕はないという，「関心だけがある」多くの人達に良く分かってもらうようにすることが大切だと感じました。
- 牛山先生の話がとてもわかりやすく面白かったです。条例を作る時にもっと若い人の話も取り入れてほしいと感じました。条例は市民全員が守らなくてはならないものなので，様々な年代の人の意見を取り入れたら良いものになっていくのではと感じます。
私は21歳の学生です。これから私たちが長い間守らなくてはならない条例だと思うので，よろしくお願いします。
- 2時間という時間の中で，内容がたくさんあったが，全体的には充分であった

と思う。これからの地域との意見交換会に期待したい。

○ 宇都宮市の自治の姿を垣間見ることができました。

○ 皆の力で住み良い宇都宮市にしていきたいと思います。

(共感できた内容等)

○ 前文の「思いやりのある社会の構築」, 市民の権利と責務のところに共感できた。

○ ・ 「自助, 共助, 公助」の考え方は, これからの市の運営には重要だと感じています。

・ 基調講演は, 時間的にも内容的にも非常に良かったと思います。

○ 基本原則, 参画と協働の部分に共感した。

○ 以下が大切だと感じた。

- ・ 住民と執行機関, 住民と議会の関わり方
- ・ 住民のニーズが届きやすい仕組みづくり
- ・ 事業者(企業)も地域社会を構成する一員であり, まちづくりは事業者の参画が欠かせない。
- ・ イベントをやること自体が目的ではない。
- ・ 地域コミュニティの強化につながる(連帯感が希薄になっている。)

○ 事業者の責務を宇都宮らしさとして重視してほしい。いかに市民に理解してもらうか, 関係者の意見を聞いて一層の努力が必要

○ 明治以来の「官が民を指導する」という基本方針はもう古い。自治基本条例の取組は, その意味でも大変良いと思います。

ところで, 宇都宮市は外から来た人に対して冷たいという感じがします。

外に向かっても開かれたマインドを持てるような条例で, 宇都宮市民になったら生き生きと住めるようなものにしていただければ大変良いと思います。

今の日本の法律は明治以来の「官が民を指導する」という考え方がそのまま残っています。

○ ①行政ができないこと(里山保全等)を地域が担うということ, ②もったいない全国大会, 宮っ子の誓い, 自治会加入, 他人の土地・建物を改良させること等, 宇都宮らしさを盛り込めたら, ということの2点に共感した。

- 市民が「自らできることは自ら」という部分，現在，とても必要なことだと思います。制度づくりはこれからだと思います。まずは意識の啓発になると思います。
- 刻一刻と世の中の流れが変わっていくので，その時々で必要な内容を条例の中に盛り込み，市民生活が向上されていけばと思います。
- 協働のあり方・考え方を，市民のすみずみまで行き渡らせることは大変なことだと思います。
でも，時代の変化に応じながら，自らそのように動くことができれば，素晴らしいと思います。

(シンポジウムのやり方に対する意見)

- 商工会議所の方がおもてなしのルールの本を紹介されていましたが，私は初めて見ました。
今日のシンポジウムで必要な方だけにでも配ってくだされば良かったなと思いました。
- ・ 他市で可決されている自治基本条例を具体的に紹介してほしかった（イメージがわからなかった。）。
 - ・ このシンポジウムは，たった一部の興味のある人達だけの集まりに過ぎないのではないか。そのせいか，来ている人を見ても，自治体の職員，議員が多い。近くに座っている役所の職員らしき人は，「住民を巻き込まないと，後で何を言われるか分からない。」と言っているし…。これでは先が暗い。
 - ・ 「独自の」とか，「宇都宮らしい」とか言っているわりには，前文を見ただけでもどこの市でも通用しそうで，独自性がない。
- パネリストに議員も加えるべき（市民，NPO，企業だけでなく）
- 参加者にとっては，一方的に話を聞く手法だったので，もう少し平場で，参加者と「考える会議」で話しができる場があっても良いと思います。
過去に2度，公募で市の計画づくりに参加しましたが，あまり成果が出せなかった（行政が受け止めてくれない。）ので，「考える会議」の公募の皆さん，頑張ってください。
- 自治基本条例の素案に至るまでの会議の様子，意見をもう少し説明していただけたらと思う。

- 会場からの意見を聞く時間が全くないことに驚いた。協働を推進していくのに危機感を憶える。子どもたちの声を聞く機会を設けてほしい。
- 時間の関係もあると思うが、全般的に理念や抽象的な話が中心で、具体性に欠けるため、もっと分かりやすく資料もつくるべきだ。条例制定の必要性、及び、それを作ることによって何がどのように変わるのか。憲法で言っていることでなく、もっと身近な生活や経済活動との関連をどのように変えていくのか、あまり見えてこない。特に参画のプロセスが分からない。
- ・ 発表会のスライドと配布資料の内容をわかりやすく近づける。
 - ・ 各考え方の一長一短を整理する。(それぞれの立場ではわかる…理にかなっている。)
 - ・ 協働…これもいろいろ説明されているが、それぞれの立場からの意見としか理解できない。
 - ・ 内容…もっと明確に主張することに心掛けた方が良いと思われる。
- ・ 自治会加入者に対して本日のシンポを知らせたのか。
 - ・ 質問の時間がないのはおかしい。
 - ・ 道づくりはまちづくりである。道づくりがまずい。
- 内容は良いと思うが、若干の質疑の時間が欲しい。
- 会場の雰囲気がこわい感じがした。

(その他地方分権や自治基本条例全般に関する感想・意見等)

- 自治体間競争の時代に入ったことは、日々の生活を通じて肌でも感じるが、宇都宮市は、東京・名古屋・大阪等大都市と比較して格差はかなりある。極端な言い方かもしれないが、大都市圏と競争しても負けるのは当然かも。
 宇都宮市は、一番になるというよりも、誰もが誇れる地域になれるようなビジョンを打ち立てるべきなのではないか。
 牛山先生のお話を聞いた後でも、正直、現状は悲観的だと思う。
- 若者に魅力あるまちづくりを目指してほしい。
- まちづくりにPTAの組織からも協力を考えてはどうか。(子どもの安全・安心を願うことから考えて)
 宇都宮市PTA連合会もあるのでどうか。

- ・ こんなまちになったら良い、という夢を積極的に前文に盛り込んで。
 - ・ 地域活動団体と非営利活動団体を分けた点はおもしろいが、一般市民に理解してもらえるのか。

- ・ 役所の仕事のスピードアップ（そのために間違ったら直ちに変更する度量を持つこと。）
 - ・ 市議に依頼したら要求が早く実行されるような風潮を改めること（議員も職員も成長しない。）。

- ・ 内容としてはまだまだ難しいと感じる。もっと平易な言葉にできないものか。
 - ・ 市民の中には、「権利」ばかりを主張する人も多いように思う。役割と責務を強調しても良いのでは。

- 住民投票に関することは条例にふさわしい。その他の部分は条例の形式に合致するのか理解できない。自治基本条例とは何か。その制度の担保のために条例化が必要なのかどうか。この点について説明することが大切

- ・ 「各主体は対等の立場に立って」とあるが、対等でよいのか。対等にする方策はあるのか。
 - ・ 権利・責務のところ、市民だけに権利があるが、他の主体はどうなるのか。市民以外の権利を書けないのは、特権なので、権利として書けないのではないかと思う。
 - ・ 具体的な市民の問題、例えば産業廃棄物処理施設をつくるかどうか等を解決する手段として、この条例を活かしてくればよい。

- ・ うさんくささが残りました。一部の人間だけの利益になるのでは。
 - ・ 住民投票は国籍条項を作るべき。
 - ・ この条例の議論よりやるべきことがあると思います。
 - ・ 条例には反対です。

- 自治基本条例は必要ありません。国からの指導もなく、条例の中の最高法規として位置付け、自治を解体させようとする内容。自治の憲法たる内容はなくすべきであり、細部にわたり、問題が多すぎます。